T.T Saitama NEWS LETTER

Vol.4
2022年3月号

あと1本がとれず、琉球に敗れる

2月5日(土)北九州市立総合体育館にて琉球アスティーダと対戦し、1-3で敗れました。
【試合結果】
第1マッチ
上田・篠塚 1(11-8.10-11.7-11)2 有延・宇田
第2マッチ
松平 3(11-7.9-11.8-11.11-5.11-8)2 吉村
第3マッチ
篠塚 2(11-5.11-8.8-11.9-11.9-11)3 宇田
第4マッチ
丹羽 1(7-11.11-8.5-11.8-11)3 濵田
『みんないい形で全日本を終えて、練習もその後できていたので、勝てなかったのは残念だった。ダブルスは2ゲーム目をデュースで取り切れなかったのが敗因。松平は吉村選手にいい試合で勝ってくれた。篠塚は宇田選手に2ゲーム先取して、7－2でリードしていながらも敗れてしまったのが敗因。しかし内容的に悪くなかったので、本人にとっていい経験になったと思う。何回もこのような試合をして強くなっていってほしい。丹羽は濵田選手に思い切って来られて終始おされムードになってしまったので、早い段階で戦術転換できればちょっと違ったのかなと思う。重要な試合だっただけに1-3で敗れたのは残念だが、試合はまだまだ続くので、上を向いて頑張っていきたい。』と坂本監督は試合を振り返った。
この日からコロナで療養していた曽根が合流した。英田が陽性となりベンチから外れたため、五十嵐史弥が初ベンチ入りとなった。『ベンチで一緒に戦えるというのはすごい嬉しかった。』と五十嵐選手。試合中は練習相手を務めたりと、裏方としてサポートしてくれるチームになくてはならない存在だ。

ベテラン上田が意地を見せた！

2月10日(木)和光市民文化センターサンアゼリアにて琉球アスティーダと対戦し、1-3で敗れました。
【試合結果】
第1マッチ
篠塚・曽根 1(5-11.11-7.13-15)2 有延・宇田
第2マッチ
上田 3(10-11.11-6.11-5.11-7)1 濵田
第3マッチ
松平 0(9-11.7-11.7-11)3 宇田
第4マッチ
丹羽 1(8-11.7-11.11-2.5-11)3 吉村
サンアゼリアで開催されたホームマッチ。当日は雪が降り悪天候で観戦を断念したファンも多かったが、劇場には手拍子が響き渡った。
上田選手が久しぶりにシングルスに起用された。

1月の全日本選手権で絶体絶命のピンチから大逆転をした濵田選手と再戦。『もう試合はしたくない。』と話していた選手だった。
『かなりの警戒をしていました。スコア以上に苦しかったが、勝ち切れてよかった。要所でバックサーブが効いてたので、最後思い切って使い切れたのが良かったです。ファイナル優勝にむけて、負けられない試合が続く中で、どのチームもコロナで大変だが、気持ちで負けないようにやるだけ。足元が悪い中、応援に来て下さる皆さんの期待に応えたい。』と上田選手。いつにもまして絶対負けられないという気持ちがプレーから伝わってきた。
ダブルスで惜敗した篠塚選手は『勝ちたかったです。最後まで自信がなく、悔しい試合になってしまいました。明日勝って流れを変えられるようにしたいと思います。』と試合を振り返った。

劇場に〝爆援〟が響いた熱い戦い

2月11日(金・祝)和光市民文化センターサンアゼリアにて木下マイスター東京と対戦し、3-1で勝利しました。
【試合結果】
第1マッチ
篠塚・曽根 2(11-4.11-8)0 吉田・松島
第2マッチ
松平 2(11-9.11-5.9-11.7-11.10-12)3 及川
第3マッチ
丹羽 3(11-6.11-7.11-10)0 松島
第4マッチ
曽根 3(11-8.11-10.11-10)0 張本
試合当日にキャプテンの神が故障し、コロナ療養を終えたばかりの英田と急遽ベンチ交代し試合を迎えた。
まず第一マッチの曽根・篠塚のダブルスが先取し、流れをひきよせた。さらに曽根は第4マッチでは東京五輪代表の張本選手をストレートで下す大活躍をみせた。全日本に出場できなかった悔しさをはらすかのような思い切りのよいプレーに観客は大いに沸いた。
『2点起用の責任をしっかり果たそうという強い気持ちが今日の勝因です。前回の和光ホームマッチではダブルスで2敗してしまい、嫌なイメージはありましたが、昨日の琉球戦では良い試合が出来ました。それに続いて今日もいいプレーが出来ました。』と笑いを交えながら曽根選手は試合を振り返った。

琉球との再戦！リベンジを果たす！

2月12日(土)和光市民文化センターサンアゼリアにて琉球アスティーダと対戦し、3-1で勝利しました。
【試合結果】
第1マッチ
篠塚・曽根 2(11-4.7-11.11-9)1 有延・宇田
第2マッチ
上田 2(7-11.6-11.11-6.11-6.9-11)3 吉村
第3マッチ
丹羽 3(11-9.11-8.11-10)0 濵田
第4マッチ
曽根 3(11-10.10-11.11-7.9-11.11-7)2 宇田
『昨日と同様2点起用してもらって、ダブルスを取らないと勝てないので篠塚としっかり話し合って前回の負けを活かして戦う事が出来たので、そこから波に乗ることが出来て勝つことが出来たと思います。篠塚はチャンスメイクがうまくて、後は自分が決めるというのが僕たちのパターンです。今まで組んできた中で一番ダブルスが組みやすい選手です。ダブルスの試合後には篠塚選手と宇田選手の戦術を話しながら練習して宇田選手の対策をしたので勝てたと思います。』と曽根選手。
『2月5日に1－3で負けていたので、濵田選手はサーブがうまく、ラリーもうまいので自分が凡ミスしないように気を付けながら試合しました。レシーブが良くできたので勝つことが出来ました。』と丹羽選手は試合を振り返った。

Photo by T.LAEGUE/AFLO SPORT

曽根の大活躍でチームは3連勝！

2月13日(日)アリーナ立川立飛で木下マイスター東京と対戦し、3-2で勝利しました。
【試合結果】
第1マッチ
丹羽・松平 0(10-11.7-11)2 大島・松島
第2マッチ
曽根 3(11-6.11-6.7-11.11-8)1 及川
第3マッチ
篠塚 2(11-4.11-9.7-11.2-11.8-11)3 張本
第4マッチ
丹羽 3(6-11.11-3.11-10.11-6)1 松島
第5マッチ
曽根 1(11-8)0 張本

ホームマッチ3連戦が終了し、4連戦目の木下マイスター東京戦。選手も疲労困憊のなか、今日も曽根が大活躍を魅せた！2021年全日本王者の及川を破ると、勢いそのままビクトリーマッチで張本に見事勝利！チームを勝利に導いた。第3マッチの篠塚も2ゲームを先取したが、逆転を許し惜しくも敗れた。敗れたものの次につながるよい試合運びだった。
『自分で覚悟を決めて立ち向かっていけたので、そのままの勢いでビクトリーマッチも勝つことが出来たと思います。チームは3連勝、自分は6連勝していてとても気持ちいいです。コロナで全日本に出場できず、(全日本の)配信も全然観てないくらいとても悔しくて、すぐにチームに合流して監督と結構話し合って、自分の技術を高めていけたと思います。今はまだ自分は挑戦者という気持ちでやっていますが、これからは相手も向かってきて攻めてくると思うので、それに受け身にならずに自分もまだまだ挑戦者という生気持ちでやっていきたいと思います。』と曽根選手。

2月10日からの4連戦を3勝1敗勝ち点9を獲得し、T.T彩たまは2位に浮上した。2月12日にファイナル進出が決定した木下マイスター東京を除いた3チームでファイナル進出を争う。

逆転負けを喫すも貴重な勝点1を獲得

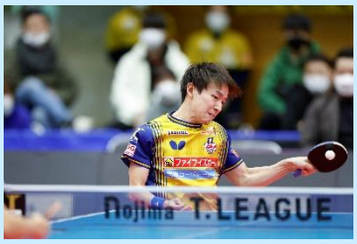
2月19日(土)神戸市立中央体育館で木下マイスター東京と対戦し、2-3で敗れました。
【試合結果】
第1マッチ
上田・松平 2(11-8.11-4)0 大島・松島
第2マッチ
曽根 3(8-11.11-10.11-8.6-11.11-9)2 張本
第3マッチ
丹羽 0(9-11.10-11.6-11)3 大島
第4マッチ
篠塚 1(7-11.8-11.11-4.8-11)3 及川
第5マッチ
曽根 0(8-11)1 張本

『2－0リードから逆転負けしたのはとても悔しいですが、ファイナル進出にむけて貴重な勝点1をとれたのは次につながる試合になりました。曽根の成長の要因は1台しかない会場でトップ選手と沢山試合に出れた事、フォアハンドの強化を行いました。ウィークポイントを少なくしてきたことが、相手からしても怖さになってきていると思います。ファイナル進出むけてのキーポイントになる選手はポイントゲッターの曽根です。誰が出場してもいいような状態で練習を積んできているので、全員がポイントゲッターになれるように仕上げていく事が大事だと思っています。』と坂本監督。

惜しくも敗れるが勝点死守

2月22日(火)東大阪アリーナで琉球アスティーダと対戦し、1-3で敗れました。
【試合結果】
第1マッチ
篠塚・曽根 0(3-11.6-11)2 有延・宇田
第2マッチ
英田 1(7-11.11-10.9-11.7-11)3 木造
第3マッチ
曽根 2(11-5.10-11.8-11.11-10.8-11)3 吉村
第4マッチ
丹羽 3(9-11.11-9.11-6.11-7)1 濵田

ファイナル進出にむけ互角の戦いが続く中で、チームの敗戦が決まり、0-3で回ってきた丹羽。3－1で勝利し、貴重な勝ち点を琉球に与えなかった。
試合終了後、曽根がロッカールームで涙ぐんだ。2点起用され、1点も取れなかった悔しさだろう。篠塚選手も『あんな曽根さんは観たことないです。』と普段は見せない光景だった。
少し不穏な空気がただようロッカーで『やられたらやり返す！明日勝てばいい。』と坂本監督は選手に声をかけた。



ファイナルが大きく近づいた一戦

2月23日(水・祝)岡山イオンで岡山リベッツと対戦し、3-1で勝利しました。
【試合結果】
第1マッチ
篠塚・曽根 2(8-11.11-6.11-9)1 吉村・森薗
第2マッチ
松平 0(10-11.6-11.6-11)3 ハオ
第3マッチ
丹羽 3(11-5.11-6.11-6)0 森薗
第4マッチ
曽根 3(8-11.11-3.11-6.11-9)1 谷垣

初めての商業施設での試合は、コート周りの席以外は無料で立ち見が可能な為、吹き抜けの会場で4階からも大勢の観客が観戦し場内は大いに盛り上がった。第1マッチのダブルスが一進一退の接戦を制し、流れを引き寄せた。第2マッチは松平と元中国代表のハオ選手が対戦。惜しくも敗れたが好ラリーに会場が大いに沸いた。第3マッチは丹羽と森薗が対戦。序盤から丹羽が積極的な攻めで圧倒した。第4マッチは曽根と谷垣選手が対戦。1ゲーム目を先取され、中盤まで相手ペースで試合は進んだが、我慢のプレーで勝ち切った。2，3位争いの岡山リベッツに直接対決で勝利し、一気にファイナル進出に近づいた。

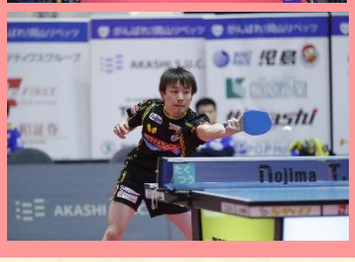


Photo by T.LAEGUE/AFLO SPORT

篠塚の勝利で、ファイナル進出決定

2月26日(土) 朝霞市立総合体育館にて琉球アスティーダと対戦し、1－3で敗れました。
【試合結果】
第1マッチ
上田・松平 0(7-11.10-11)2 有延・宇田
第2マッチ
篠塚 3(11-5.11-8.11-2)0 木造
第3マッチ
丹羽 0(7-11.6-11.10-11)3 戸上
第4マッチ
曽根 0 (8-11.7-11.5-11)3 吉村
第2マッチの篠塚の試合は圧倒的な試合運びで快勝した。この勝利によりT.T彩たまは悲願のプレーオフファイナルの進出が決定した。
試合には敗れたものの、試合後ベンチは終始和やかな雰囲気だった。
リラックスした雰囲気で明日の最終戦を迎える。
今シーズンは琉球アスティーダに苦戦し、2勝5敗と琉球アスティーダに負け越しとなった。
『ダブルスが敗れてしまい、雰囲気的によくないスタートでしたが、篠塚が素晴らしいプレーをしてくれました。負けてしましたが今日プレーオフファイナル進出を決められてよかったです。(ファイナル進出が決定して)もっと嬉しいのかなと思ってましたが、明日もあるので感極まるということはなかったです。まず、明日の試合で勝利して、ファイナルで優勝したいという思いが強いです。4月から週5日皆で練習してきました。セカンドシーズンMVPを取った神巧也をほとんど出せず申し訳ない気持ちもありますが、チームが勝つというシビアな世界で実力で勝ちぬいた選手を選出したと思っています。丹羽、上田の加入でチーム力があがったのも確かですが、曽根・篠塚の成長がチームを活気づけたのはありました。若い選手の伸びに感化されてベテラン選手も『負けてられない』とより一層最後の方は良くなっていったので、4月から時間をかけてきたことがファイナル進出につながったと思います。』と坂本監督。

PRESENTS MATCH 武蔵コーポレーション株式会社 MUSASHI corporation

シーズン最終戦を勝利で締めくくる

2月27日(日) 朝霞市立総合体育館にて岡山リベッツと対戦し、3-1で勝利しました。
【試合結果】
第1マッチ
上田・松平 2(7-11.11-4.11-9)1 ハオ・田添
第2マッチ
篠塚 3(11-5.11-6.5-11.11-10)1 森薗
第3マッチ
丹羽 3(11-5.11-6.11-4)0 大矢
第4マッチ
曽根 2 (10-11.11-8.8-11.11-10.11-13)3 ハオ
『今シーズンあまりシングルスが勝てなかったのですが、弱気で試合に入っても意味がないと思ったので思い切ってプレーできたので、それが勝ちにつながったと思います。今日勝つことができて、この流れでファイナルも勝って優勝したいと思います。ホーム最終戦ということで、沢山の方に会場に観に来ていただいて、チームが勝つことができてとてもよかったです。』と篠塚選手
『ファイナルに向けて、今日勝つのと負けるのではチームとしての勢いも変わってくると思います。皆さんにこれはいけるぞ！という気持ちになってファイナルに行った方がいいと思っていたので、勝ってファイナルに行くことができてよかったです。これまで一度もファイナルに行けてなかったのが、4年目にしてやっと行けますので、このチャンスを優勝という形で皆さんと一緒に楽しめたらと思います。』と坂本監督。
今シーズンポイントゲッターとして大活躍を魅せた曽根選手は『今シーズンは坂本監督が起用してくれてその期待に応えようと勝てた試合もありましたが、今日は負けてしまって悔しいです。ファイナルでは、自分が勝利に導きます。』と活躍を誓った。
今シーズン岡山リベッツより移籍した上田選手は『シーズンを通してチームで練習をしっかりしてきた。その積み重ねの結果だと思います。このチームに来てよかった、強くなったと思っています。そして、今年こそは、勝ってうれし涙を全員で分かちあいたい。』と話した。

『僕は今シーズンよりT.T彩たまに加入させて頂いて、素晴らしい環境で楽しくシーズンを過ごすことが出来ました。今シーズンはなかなか勝てずに苦しかったんですけど、それでもファイナルに行けたというのはチームメイトの活躍に感謝しています。僕もファイナルの舞台でプレーするのは初めてなので、凄く楽しみにしていますし、優勝できるように頑張ります。』と丹羽選手。
『沢山の方に支えて頂いて感謝の気持ちでいっぱいです。ファイナルで優勝して皆さんと一緒に喜びを分かち合いたいと思います。』と英田選手。
『セカンドシーズンは悔しい思いをし、サードシーズンは苦しい思いをし、やっとファイナルに進出することが出来ました。みんなと優勝できるように頑張りたいと思います。』と松平選手。
『今シーズンも一緒に戦ってくださった皆様に感謝申し上げます。昨日の試合では会場に選手が入場してきたときに、とても温かい拍手で観客の皆さんが僕たちを迎えて下さって、埼玉のファンは温かくてそれがチーム、選手の力になっているんだなと改めて感じました。』とキャプテンの神巧也。セカンドシーズンは最多勝だった神だが、出場機会に恵まれなかった。曽根、篠塚の若手の急成長、そして経験豊富な選手バランスの取れたよいチームだった。
試合後のセレモニーでは応援していただいた方に、感謝の気持ちとファイナル優勝をそれぞれ誓った。

PRESENTS MATCH
あいおいニッセイ同和損保

悲願のファイナル！惜しくも敗れる

3月3日(木)アリーナ立川立飛にて木下マイスター東京と対戦し、1-3で敗れました。
【試合結果】
第1マッチ
上田・松平 0(9-11.8－11)2 大島・田添
第2マッチ
曽根 0(9-11.9-11.9-11)3 張本
第3マッチ
丹羽 3(11-4.12-10.11-6)0 大島
第4マッチ
篠塚 2 (11-7.7-11.9-11.11-1.8-11)3 及川
チームが発足して4年。初めてのプレーオフファイナルの舞台に立った。
曽根翔が後期MVP賞を受賞した。またベストオーダー賞(各マッチにおいて、最も勝利数の多い者を当該マッチのベストプレーヤーを選出)を第3マッチでシーズン6勝をあげた丹羽孝希が受賞した。
試合前には『挑戦者として向かっていくだけ、最後の一球まで責任と自覚をもって楽しんでいこう！』と坂本監督が選手を送りだした。いつも以上に選手は楽しそうにコートに入っていく姿が印象的だった。
丹羽孝希、上田仁の加入と曽根翔、篠塚大登の成長。ベテランと若手の融合がシーズンの好調を支えてきた。敗れはしたものの、坂本監督は『孝希が素晴らしいプレーをしてくれて、大一番でさすがメダリスト強いなというところを見せてくれた。若手の篠塚、曽根もこんなスピードで伸びるんだというぐらい、年間を通してどんどん成長していって、起用しない手はないと思っていた。新しい彩たまのスタイルを見せられたのかなと思う。』と坂本監督は試合を振り返った。

Photo by T.LAEGUE/AFLO SPORT